

2013. 11.14 平成 25 年文教委員会 本文

○大場委員 スポーツ祭東京二〇一三についてお伺いいたします。

先日、十月十四日に、東京では五十四年ぶりに開催される国体、東京で初めて開催される全国障害者スポーツ大会を一つの祭典として開催されたスポーツ祭東京二〇一三が閉幕いたしました。そのオープニングとなる九月二十八日の国体総合開会式では、夕闇迫る薄暮の中での開会式となり、七年後の東京オリンピック・パラリンピックへの夢をつなぐ火と光の祭典となっており、大変にすばらしい開会式でありました。

翌日から始まった競技会では、全国から選抜されたトップアスリートたちによる激戦が繰り広げられました。

私は、こうした大会は、スポーツを通じて子供たちに夢を送るまたとない機会でありますし、生で試合を観戦することで、スポーツが一層身近なものに感じられるであろうし、また、選手や応援団など、全国から集まる方々を都民総参加のおもてなしで歓迎し、東京の魅力をアピールすべきとこれまでも主張してまいりました。これをなし遂げるためには、大勢の方々がさまざまな形で大会にかかわることが必要となります。

そこで伺います。スポーツ祭東京二〇一三全体を通して、一体どれだけの方々がこの大会に参加されたのでしょうか。また、先催県と比べてどうだったのでしょうか。お願いいたします。

---

○川合スポーツ祭東京推進部長 スポーツ祭東京二〇一三の全体といたしましては、本年一月と二月に東京で開催いたしました冬季国体も含めまして、第六十八回国民体育大会、第十三回全国障害者スポーツ大会、そしてこの両大会をつなぐ東京ユニバーサルスポーツ 3 d a y s、また、大会期間中、都庁の都民広場で展開いたしましたふるさと四七ビレッジ、それらの総参加者数として、およそ百二十八万人の方々がスポーツ祭東京に参加いただいたところでございます。

過去五年間を見ますと、昨年、平成二十四年、岐阜大会が百四万人、平成二十三年、山口大会は七十三万人、平成二十二年、千葉大会が七十五万人、平成二十一年、新潟大会が八十五万人、平成二十年、大分大会が六十三万人となっております。スポーツ祭東京二〇一三は大分大会のおよそ二倍の人数が参加されております。

---

○大場委員 大変多くの方々がさまざまな形で大会に参加されたからこそその人数であると思います。各競技会場でも満席になり、立ち見が出たり、競技会によっては会場に入れないう方も出るほどの盛況であったと聞いております。

この会場に入れなかった方々もそうですが、選手の地元の方々であったり、会場近くにお住まいであっても、さまざまな事情で競技会場を訪れられなかった方々もいらっしゃると思います。こうした方々でも競技を見ることができるよう、競技の模様をインターネットを通じて配信していたと思います。

そこで伺います。どのような方法でライブ中継し、どのような成果が上がったのでしょうか。

---

○川合スポーツ祭東京推進部長 インターネット配信につきましては、スポーツ祭東京二〇一三のホームページの中に、スポーツ祭東京二〇一三チャンネルという専用のポータルサイトを設け、国民体育大会では、正式競技三十七競技、全国障害者スポーツ大会では三つの競技につきまして、既存のユーストリームという枠組みを活用いたしまして、ライブ中継を行いました。

また、全国障害者スポーツ大会の正式競技の残りの十競技につきましては、競技の模様を録画し、映像をユーチューブにおいて配信をいたしました。

映像の撮影でございますが、国体の競技につきましては、主にスマートフォンによりボランティアの方々が撮影したものをライブ映像で配信をいたしました。

全国障害者スポーツ大会では、障害者スポーツの映像配信に実績のあるNPO法人に撮影ボランティアの募集や撮影技術の指導をお願いいたしまして、映像配信を行っております。

中継終了後は、ユーチューブを活用し、大会終了後も、これら全ての映像を視聴できるようにいたしました。

これまでの開催県におきましては、撮影技術をお持ちの方にこうした撮影をお願いしておりましたが、東京大会では、スマートフォンを活用することによりまして、撮影に関して特に知識のない方にも撮影のボランティアとして幅広く活躍していただくことができました。

視聴実績でございますが、同時中継では国民体育大会で約十四万件、全国障害者スポーツ大会で約四万件、またライブ中継終了後に録画配信したユーチューブでは、国民体育大会で約四十万件、全国障害者スポーツ大会では約一万八千件となっております。

これらの取り組みによりまして、選手の家族や友人の方々など、会場へ来られなかった方であっても、臨場感のある動画により、選手たちの応援ができたものと考えております。

---

○大場委員 先ほどの答弁にもありましたが、百二十八万人の参加者ということでしたが、この動画配信によりまして、先ほど約六十万件の視聴があったとのこと。実際には、およそ百九十万人の人々がこのスポーツ祭東京二〇一三に参加したこととなると思います。

動画配信の撮影には、ボランティアの方々の協力があったとのことですが、ほかにもさまざまなボランティアの方々の活動があってこそ、大会運営がなされるのだと思います。

そこで伺います。スポーツ祭東京二〇一三にかかわったボランティアの方々の人数やその役割、また特徴についてお伺いいたします。

---

○川合スポーツ祭東京推進部長 スポーツ祭東京二〇一三では、全体で延べ人数で三万人を超えるボランティアの方々に携わっていただきました。ボランティアの種類でございませけれども、国体と全国障害者スポーツ大会と合わせますと、五つの役割を担っていただきました。

受付や会場美化等に従事する大会運営ボランティア、ゆりーとダンスを初めとする広報活動のお手伝いをしていただく広報ボランティア、先ほどご説明いたしました競技映像を撮影する映像配信ボランティア、聴覚障害者の方々に手話や要約筆記により情報を伝達する情報支援ボランティア、障害者スポーツ大会に出場する選手を介助、誘導する選手団サポートボランティアがございます。

今大会の特徴といたしましては、既に実績のある東京マラソン財団と連携いたしまして、ボランティアセンターを設置したほか、障害者の方々に来場者の受付をお願いしたり、親子によるボランティア活動をしていただくなど、幅広いボランティアの方々の参加をしていただいたことにあると思っております。

---

○大場委員 やはりこれだけ大きな大会となりますと、多くのボランティアの方々の活躍がなくては大会の成功もないと思います。オリンピック・パラリンピックでは、より多くのボランティアが必要になるといわれております。今回、スポーツ祭東京二〇一三で活躍されたボランティアの方々が、七年後に再び活躍するような、そんな仕組みを考えていた

だきたいと思います。

また、七年後のオリンピック・パラリンピックを成功させるためには、東京だけで盛り上がってはなりません。日本全体を巻き込んで盛り上がっていかねばならないと思います。

第二回都議会定例会において、我が党の、東京のみならず、ふるさとへも元気を発信し、スポーツを通じて日本中が大いに元気づくような取り組みを実施すべきとの質問に、全国から人の集まる東京の特性を生かし、ふるさと応援団を結成するとの答弁をいただきました。大会期間中に都庁の広場においても、ふるさと四七ビレッジとして各県のブースなどが設置されておりました。

そこで伺います。ふるさと応援団のコンセプトと、その実績についてお答え願います。

---

○川合スポーツ祭東京推進部長 ふるさと四七応援団でございますが、東京から始まる、つながるめぐり会いをコンセプトに、東京に住む各都道府県の出身者が、東京にしながら、それぞれのふるさとや、ゆかりのある都道府県の選手を応援することにより、スポーツ祭東京二〇一三をさらに盛り上げていく活動でございます。東京ならではの取り組みでございます。多くの方々に入団登録をしていただきまして、ふるさと四七応援団の入団者数は一万人を突破いたしました。

ふるさと四七応援団は、開会式、閉会式において、選手たちが入場行進をする際に、都道府県ごとに結成いたしました各県応援団が、例えば、なまはげのコスチュームをまとうなど、各県の特色のある応援を行ったほか、幅十四メートルものビッグフラッグを使った応援活動などを行いました。

また、大会期間中、都庁都民広場におきまして、十五日間にわたり、ふるさと四七ビレッジを開催いたしました。ふるさと四七ビレッジとは、スポーツ祭東京二〇一三の応援拠点として、サテライトビジョン等で開催競技の情報の提供、それから各県の出場選手の活躍情報などを発信するほか、全国の特産品を提供いたしまして、全国から東京を訪れるふるさと選手を応援する取り組みを行い、約四万八千人の方が来場いたしました。

これらの取り組みでございますが、これまでの大会ではなく、東京で初めて行ったものでございます。

---

○大場委員 全国からの出身者の集う東京、その特性を生かして全国から集まる選手たち

を都民の方々が応援団となり応援する、こうした経験は選手たちのいい思い出となり、東京の印象もよくするおもてなしの一つだと考えております。

今回のスポーツ祭東京二〇一三では、おもてなしとして、どのようなことをされたのでしょうか。

---

○川合スポーツ祭東京推進部長 今回のスポーツ祭東京二〇一三では、まずメイン会場にあります味の素スタジアムにおきまして、地元の小中学生らが手づくりで作成いたしましたのぼり旗や、会期に合わせて育てた花などを飾り、来場者を歓迎したところがございます。

味の素スタジアムに隣接をする特設スペースでは、ゆりーと広場を開催し、プラネタリウムや水族館など、東京の魅力を体感できるブースなどを展開いたしました。

また、九月二十八日の国体の総合開会式の終了後には、西競技場におきまして、東北六犬祭り in 東京と題しまして、東北を代表する六つの祭りが一堂に会したパレードを行いまして、ご招待いたしました被災地の方々と都民の方々が一緒になって、東北のお祭りを楽しんだところがございます。

また、ゆりーと広場のステージにおきましては、日がわりでアスリートによるトークショー、それから著名なアーティストによりますライブパフォーマンスなどを行いまして、来場者に対する多彩なおもてなしを実施いたしました。

各競技会場におきましては、地元の食材を使った料理やドリンクが振る舞われるなど、各区市町村が趣向を凝らしたおもてなしを実施しております。

さらに、競技だけでなく、東京の文化や観光等を楽しんでいただくため、美術館、観光施設等の施設割引を実施するとともに、競技会場をめぐるスタンプラリーを実施いたしまして、各競技会場への回遊性を高めるとともに、地域の振興につなげる取り組みを行ったところがございます。

---

○大場委員 ただいまのご答弁いただきましたように、さまざまなおもてなしで全国から集まる選手たちを温かい心で包み、ふだん以上の力を発揮できたのではないのでしょうか。

おもてなし、この言葉を聞くと、二〇二〇年オリンピック・パラリンピック開催都市をかち取ったブエノスアイレスでのI O C総会でのスピーチを思い起こされると思います。今回のスポーツ祭東京二〇一三には、I O C総会で印象的なスピーチをされた佐藤真海さ

んも出場されていきました。

佐藤真海さんはテレビのインタビューで、国民体育大会と全国障害者スポーツ大会を一つの祭典、一つの大会として開催するスポーツ祭東京二〇一三だから参加することとしたとっていました。これまでのように障害のある方とない方を分けて考えるのではなく、ともに一緒のものとして考えることが障害者にとっても喜ばしいことであることがわかります。

最後に、スポーツ振興局長に伺いますが、国民体育大会と全国障害者スポーツ大会を一つの祭典として開催したスポーツ祭東京二〇一三は、その開催を通じて、全国に対して何を発信し、大会終了後には何をレガシーとして残していくのでしょうか。

---

○細井スポーツ振興局長 スポーツ祭東京二〇一三は、国民体育大会と全国障害者スポーツ大会を初めて統一名称で一つの祭典として開催しました。この点からも、新たなスポーツ大会のあり方を全国に発信したと考えております。

その中でも国民体育大会でのデモンストレーションとしてのスポーツ行事、五十七行事ございますが、この中で障害のある人も参加できる行事を過去最大規模の四十四行事实施しまして、また、全国障害者スポーツ大会のオープン競技十七競技を——これも過去最大でございます、実施して、誰もがスポーツを楽しめる機会を拡大したと、このように考えております。

大会運営においては、国民体育大会の開会式などで、障害のある方もボランティアとして活動するなど、ともに支え合う大会といたしました。

また、両大会をつなぐ三日間には、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しむことができるスポーツ都市東京を目指すことを誓い、東京ユニバーサルスポーツ宣言を行ったところでございます。こうした取り組みの精神をスポーツ祭東京二〇一三のレガシーとして、今後の都のスポーツ振興策に反映し、都民の誰もが多様なスポーツを楽しみ、一人一人が輝く都市東京の実現を目指してまいります。

二〇二〇年オリンピック・パラリンピックの大会が、こうしたスポーツが成熟された都市東京を舞台に開催され、これまでになく史上最高の大会となるよう、全力を尽くしてまいります。